

令和7年度第1回 日進市高齢者福祉・介護保険事業運営協議会
議事録

【日時】

令和7年11月5日（水）午後2時～3時15分

【会場】

日進市民会館2階会議室

【公開区分】

公開（傍聴1名入室）

【出席状況】

・出席委員（13名）

田川佳代子（会長）、井手宏（副会長）、小出貴照、林啓子、丹羽俊行、天野典幸、
大山英之、藤嶋日出樹、大川彰治、澤田基弘、諏訪正美、竹内安子、水野正子

・欠席委員（2名）

浅井考介、古橋完美

・事務局（10名）

祖父江直文（福祉部長）、高見紀子（福祉部次長兼地域福祉課長）、市川英子（介
護福祉課長）、川合陸仁（地域福祉課主幹）、藤田綾子（地域福祉課総括保健師）、
小柳和之（介護福祉課課長補佐）、櫻木順子（地域福祉課主任主査）、小倉懸自（地
域福祉課主査）、志水崇法（介護福祉課主査）、上野慎也（地域福祉課主任）

【配布資料】

・次第、委員名簿、事務局名簿

・資料1-1 被保険者数等の状況

・資料1-2 第9期にしん高齢者ゆめプラン進捗管理シート

・資料1-3 サービス見込み量に関する取組（フェイスシート及び年度シ
ート）

・資料1-4 介護給付適正化に関する取組（フェイスシート及び年度シート）

・資料1-5 介護予防・重度化防止の推進 保健事業と介護予防の一体的実施
（フェイスシート及び年度シート）

・資料2-1 第10期にしん高齢者ゆめプランの策定について

・資料2-2 アンケート調査の実施について

・資料2-3 アンケート調査各種様式

【議事】

≪ 1. 開会・挨拶・報告 ≫

- ① 開会（進行：地域福祉課長）
- ② 福祉部長挨拶
- ③ 委員交代報告：前任・小林委員退任、新任・林委員就任
- ④ 事務局人事異動報告：課長補佐・野村異動、主幹・川合着任。
- ⑤ 第10期策定支援業務の委託先紹介：株式会社サーベイリサーチセンター名古屋事務所。
- ⑥ 会議公開の決定：条例・規則に基づき審議。非公開相当事項なし。傍聴者入室を決定。

≪ 2. 議題（1）第9期にっしん高齢者ゆめプランの進捗について ≫

- ① 2-1. 事務局説明（介護福祉課、資料1-1、1-3、1-4）
- ② 2-2. 事務局説明（地域福祉課、資料1-2、1-5）
- ③ 2-3. 質疑・意見（●質疑等、○回答）
 - 委員：資料1-1、3ページの認知症対応型共同生活介護の給付費執行率（92.2%）の背景はどのようなか。
○事務局：計画値設定の前提や空床期間の影響が推測される。全体としてグループホームの需要が大きくなっていることは認識している。介護度の構成変化で給付単価が下がる可能性も。利用者の平均介護度は現状集計しておらず、今後把握検討。
 - 委員：文字が小さいため資料1-2の判読性が低い。
○事務局：改善を検討。
 - 委員：資料1-1、1ページの第1号被保険者の認定者数について、要介護3及び4の区分の実績が計画より少ない点の要因分析は行っているか。
○事務局：現時点で要因は不明。総数だけでなく移行の中身の分析が有用との助言があったため、可能であれば分析対応を行う。
 - 委員：小規模多機能型居宅介護の予防給付費が、計画比で約3倍となっている要因はどのようなか。
○事務局：計画値約120万円、執行額約400万円だが、実際は利用者が数人増えたことによるもの。グループホーム新設と併せ、小規模多機能型居宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護も公募中。

- 委員：看護小規模多機能型居宅介護の市内状況はどのようなか。
- 事務局：市内では未整備。今回公募で小規模多機能型居宅介護又は看護小規模多機能型居宅介護のいずれか1つを募集。

《3. 議題（2）第10期にしん高齢者ゆめプランの策定について》

- ① 3-1. 事務局説明（地域福祉課、資料2-1、2-2、2-3）
- ② 3-2. 質疑・意見（●質疑等、○回答）

- 委員：介護人材確保の見通し及び対策はどのようなか。
- 事務局：自治体レベルの不足実数把握は、今回の調査をもって行う。対策は国の方向性と合わせ検討。市独自の支援（資格取得・更新研修受講支援、入門研修の実施）を実施しているが、調査結果に応じて内容を検討。当協議会で話が上っているため、現場の危機感は認識している。

- 委員：介護人材実態調査のアンケートの実施方式について、事業所側の作業負担が大きい。職員ごとに属性・就業実態を複数項目で入力、就業職員数が多いため作業集計等負担が大きい。職員の「現状数」の計測だけでは不足数が算出できず、意義が見えづらい。任意項目も含め、必要最小限として、活用方針の提示を要望。
- 事務局：国推奨様式を採用方針だが、他自治体の事例確認等を行い負担軽減策について再検討。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、前回からページ数を約4ページ削減済。

- 委員：プランと健診データとの連携や活用についてはどのようなか。
- 事務局：特定健診等と介護予防の一体的実施を推進。フレイル問診（75歳以上15項目）と健診データ等を突合、リスク層を抽出して個別アプローチを実施する。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のデータも活用し、無差別ではなく選択的介入を推進。第10期計画におけるアンケート項目数は評価研究上の必要最小限へ精査済。

- 委員：就労に関する質問を設けているが、65歳以上の就労意向だけでなく、就労働機の重視点（報酬・やりがい・交流・負担感等）を追加し、介護現場就労促進や就労的活動支援コーディネーターの実務設計に活用すべきとの提案。
- 事務局：検討の上、反映を調整。

- 委員：市独自質問として、スマートフォン利用状況に関するものがあるが、目的はどのようなか。

○事務局：高齢層でのスマートフォンの保持・活用状況を把握し、広報・情報提供手段の転換や将来的な高齢者施策等の展開の基礎にするため。

●委員：追跡調査 1,500 件に関するデータの活用はどのようなか。

○事務局：前回実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答者約 1,500 名に対して追跡調査として今回もアンケートへの協力を依頼する予定。それにより、3 年間の変化として状態の維持や悪化、そこから生活要因の関係を検証。

【閉会】

以上